Club information

第５号：２０２３．１２．１５
発行元：公益財団法人宮崎県スポーツ協会

早いもので今年もあとわずかとなりました。この１年、本県スポーツ界は特別国民体育大会での総合成績２７位を始めとして、様々な選手の活躍が光りました。また、味の素トレーニングセンターやアスリートタウン延岡サブアリーナが完成し、今後も、延岡のメインアリーナ、県営の新プール、陸上競技場などの完成が待ち望まれます。これらの施設の活用をとおして、スポーツランド宮崎がますます発展していくことを期待したいものです。

来年はパリオリンピックが開催されます。すでに本県出身の柔道女子高山選手が代表として内定。１人でも多くの内定選手が誕生し、県民に夢と感動を与えることを期待しましょう。

さて、１１月より１月までの日程で県内の市町村とクラブ訪問でお世話になっております。クラブ運営の特徴や展望、課題等を聞かせていただく中で、それぞれのクラブの情報を共有する必要性を感じています。次回以降の本誌で情報が発信できるようにしていきたいと思います。

今回は、１０月に視察した県外の先進クラブ訪問で学んだ内容を紹介します。

1　認定ＮＰＯ法人日本スポーツアカデミー（茨城県つくば市）

- 本クラブでは、「スポーツ実施率の向上」をコンセプトに、運動・スポーツを全くやらない人、興味のない人をどう掘り起こすかに取り組んでいる。
- 会社の経営、投資の経験をクラブ経営に活かしている。収益を生みそれを経営に活かしている。人件費を生み出すのは並大抵のことではない。
- 総合型＝枠組みではない。大事なことは、「やり方」である。
- スポーツをとおして社会貢献するために、放課後に焦点を当てて児童クラブの運営に活かしている。文科省の放課後子供創造プランをスポーツに落とし込んでいる。
- 認定ＮＰＯ法人の枠組みの中で、国から予算が出る児童クラブ（６カ所運営）を運営し、長く続けることで、人件費が生み出せ、人を雇えるようになる。それを、実態がない総合型クラブの運営に関係づけている。大切なことは、いかにして予算をつくるか、生み出すかである。
- ＮＰＯ法人の課題＝総合型の課題。その状況で、ＮＰＯの考え方をクラブ経営にどう活かしていくかを考えて取り組んでいる。常にＮＰＯの視点で総合型クラブをみている。

- 立ち上げは身内の会員からスタートし、始めの３年間は苦労した。人が集まってきて大会に参加し、共通のシャツを着ることで目立ち、関心を集めてきた。そのうち手伝ってくれる人が増え始め、集まった人のアイデアで様々な教室、イベントを増やしてきた。
- 会員からやりたいことを引き出すことで、会員１人のバックグラウンドを集めていく。そしてやってみて、膨らませていく。

【問い合わせ先】
公益財団法人宮崎県スポーツ協会
Miyazaki Prefectural Sports Association
E-mail:miyazakiken-sc2@japan-sports.or.jp（担当：和田）
TEL:0985-58-5633　　FAX:0985-58-5630

・　日本人はお願いされたらやってくれるので、地域の人を捕まえることが大事。
・　プログラムありきで人を集めることは困難。集まった会員の特技を活かしていくプログラムを作っていく方がよい。クラブに来ればいろいろなことが定額でできる方が人は集まる。
・　１つのプログラムに指導者は２人必要。（急な事態に備えるためである）
・　子供の時に会員になり、大人でも続け、社員になっていくという好循環が理想的である。

２　ＮＰＯ法人高津総合型スポーツクラブSELF（神奈川県高津市）

・　本クラブはＮＰＯ法人として１７年のクラブである。地域の小中高特別支援の施設を有効に使いたいという夢を持って立ち上げた。（クラブの菊地理事長は「合築」と言われた）
※合築＝利用目的の異なる公共施設を複合化、併設すること
・　平成１５年度にＰＴＡ活動が停滞したとき、川崎市から総合型スポーツクラブを立ち上げないかと相談を受けて立ち上げた。川崎市が、中学校体育館の空きスペースをパーテーションで区切った部屋をクラブハウスとして提供してくれた。
・　登録制度に関して、いろいろな場で「登録料を払うのにメリットがない」と言われるが、「メリットは自分たちで作るもの」と説明している。
・　神奈川県内には１０３のクラブがあり、そのうち約半数が登録クラブである。本クラブが巡回指導している。
・　クラブ運営は、会社経営と同じレベルで取り組まないとできない事案であると認識しており、人を雇用して賃金を出せるようにしている。そのため、４期１７年の指定管理業務実績がある。
・　学校施設の有効活用が総合型スポーツクラブ発展のポイントである。川崎市では、市長の方針として「学校施設地域管理業務」（小中学校の用務員業務で２０名を雇用している）委託をＮＰＯ法人が受託している。これにより、子供、学校、ＰＴＡ、地域を結んでいる。また、「学校施設有効活用業務」（学校開放管理）も受託している。
・　人・金は何とかなるが、モノ（場所）の確保は難しいので、これらの業務受託により、クラブが場所をマネジメントできるメリットがある。
・　本クラブは指定管理業務に依存している。クラブ会費収入だけでは運営はできない。（月会費のみで1,800円×月数×会員数）会費だけで運営するには、月会費10,000円は必要である。
・　元々の理念として、事業を起こして人とつながり、給与を生み出していくという方針でやってきておりそこはぶれていない。
・　特徴的な活動として、吉本興業とタイアップしている。吉本興業に登録している元トップアスリートが約３５０人いるので、若手の売れない芸人とそのアスリートを活かすために、クラブのイベントに協力してもらっている。
・　私案ではあるが、部活動地域移行よりも、その改革によって部活動を緩くすることこそが大切ではないかと考えている。自主的で、楽しくて、複数種目の活動を教員がサポートする活動が理想である。
・　地域移行するためにはコーディネーターが必要であり、地域に根付いた活動が必要である。

「都会の大きなクラブだからできる」と考えるよりも、「大きくしていくために取り組んできた工夫は何か」を考えることが大切だと思います。高津クラブSELFの菊地理事長は、令和６年２月１日（木）の連絡協議会研修部会でも直接ご講話いただくことにしていますので、楽しみにしておいてください。

【案内】　第２回県連絡協議会理事会・総会・部会
○　２月１日（木）　理事会・総会　　１１時から１２時
研修部会（講話）１３時３０分から１５時
○　会場：宮崎県総合運動公園ひなた武道館大会議室

今年もお世話になりました。
来年もよろしくお願いいたします。